

協会・総務 NEWS

第47回 通常総会が開催される

当協会では平成13年3月2日、新潟市万代「ホテル新潟」を会場に第5回理事会（監事合同）と第47回通常総会を開催致しました。

総会は五十嵐会長と来賓の新潟県農林水産部畜産課長・帷子功氏から、厳しい畜産情勢を踏まえ、今後とも生産性が高く、安全で高品質な県内産畜産物の安定供給を確保し、米を中心とする本県農業の主要な複合部門としての畜産振興を関係機関・団体等と連携を図りながら、主要業務である経営診断や価格安定対策、家畜の病気予防対策などについて、効果的に事業を推進し、より良いサービスの提供を通じて畜産農家の経営安定に努める旨の挨拶がありました。

続いて、定款の一部変更、平成13年度事業計画及び収支予算、平成13年度会費の賦課、平成13年度預入並びに借入先金融機関決定、役員報酬の決定、肉用子牛業務規程の一部改正の7つの議案について審議され、いずれの議案も原案どおり承認されました。

支援業務課 NEWS

酪農経営データベースの運用がスタート

平成12年度より新たに始まった担い手集中経営支援体制整備事業で開発された「酪農経営データベース」の運用が本年3月より開始されました。

このデータベースには、中央酪農会議の「酪農全国基礎調査結果」、家畜改良事業団の「牛群検定結果」各都道府県畜産会の「経営診断結果」等が蓄積され、常に最新のデータを提供する体制となっています。

パソコンを所有している酪農家、支援組織がNNCS（NTT Network Connect Services）への加入手続きを終えれば、加入者に無償で配布される様々なデータ分析ソフトを活用し、牛群管理や経営管理を行うことが可能となりました。

さらに、当協会では肉用牛経営、養豚経営用にも自ら経営分析ができる農家版の「経営データ処理プログラム」を用意しておりますので、詳細については支援業務課までお問い合わせ下さい。

平成12年度 畜産経営技術発表会を開催

当協会が実施している畜産経営技術高度化推進事業に係る平成12年度畜産経営技術発表会を3月9日（金）に新潟市のハミングプラザで開催しました。

午前中は平成12年度経営診断受診農家を代表して、次の3名がこれまでの経営の取り組み等について発表しました。また、午後からは畜産環境保全を進めるために、この度作成した「新潟県における家畜排せつ物の処理方式」についての説明会を開催し、多数の参加者が真剣に聴講されました。

（発表内容）

酪農経営

「生涯乳量の高い牛群整備への取り組み」
井上敏和氏（新発田市）

肉用牛経営

「ETを活用した肥育一貫経営を試みて」
河内松雄氏（黒川村）

養豚経営

「豚人工授精を活用した繁殖成績向上の取り組み」
島田福一氏（津南町）

新潟県における 家畜排せつ物処理のポイント

近年の畜産経営は、一経営体当たりの規模が拡大する傾向があり、これに伴う家畜排せつ物による環境汚染が問題視されています。新潟県においても例外ではなく、家畜排せつ物の適正管理と利用の促進が急務の課題となっています。そこで、今回、県内における処理のポイントをいくつか紹介します。

- ① 年間を通して計画通り確実に処理ができる。
（新潟県は積雪があるので冬期貯蔵庫等も必要。）
- ② 電気料金等のランニングコストが安い。
- ③ 故障や消耗、更新時の負担等が少ない機械を使用する。
- ④ 運転・管理労力が少ない。
- ⑤ 建設・施工費が安い。
- ⑥ 施設面積が少ない。

つまり、機械類の使用が少ない施設ほど農家に適した施設であり、使用機械がシンプルで低価格なほど良い施設となります。